

製法の秘密情報管理を徹底し、先進の樹脂加工技術を守る

事業内容

1969 年、株式会社木田工業設立。樹脂加工業界で初めて光造形システムを導入、セラミックスの新工法「3D スリップキャスト®」、高品質・高効率のプラスチック加工法「ジャストインメイク®」などさまざまな新製法を確立。2006 年、社名を株式会社 KDA に変更、現在に至る。

特許登録番号と内容

特許第 3552108 号	ウエハ研磨装置
商標登録第 5013712 号	KDA
商標登録第 5035342 号	3D スリップキャスト
商標登録第 5073576 号	ジャストインメイク
商標登録第 5073577 号	ワンプロセッシング 2by2

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA (2011 年 2 月現在)



代表取締役
木田行則さん

高価な金型不要、小ロットに対応する「スマート成形」

「一つの技術・製品に頼るのではなく、常に 2 つ以上の方向性を考えて、開発を行っています」

株式会社 KDA の木田行則代表取締役は語る。

同社は 42 年前大田区で創業。以来、次々に新しい技術を開発し、それを製品化してきた。

最初に取り組んだのは、排ガスの処理装置。下水処理場の臭いなどを吸収する 1 台 1,000 万円ほどのシステムだったが、あまり売れなかった。

その後、同社は樹脂の光造形をスタートする。完成品の用途は医療用模型。病院で開頭手術をするとき、患者の脳内血管の形状などを検討してから本番の手術が行われる。同社が作る光造形によるスケルトンは、CT・MRI から得た患者のデータを光データに変換、0.1mm ずつ薄い膜を積層して模型を作る。

「慶應病院などに納入しましたが、これも利益が十分出たとはいえません」

手掛けていたプラスチック加工に加えて、15 年ほど前からセラミック加工の新しい製法を開発、現在は、太陽光発電パネルのネジなど、機械部品を国内外に多数提供している。

「スマート成形」に代表される同社のプラスチック成形の特長は、金属の金型を使用しないため、型代にかかるコストが 10 分の 1 になること。また、低価格で小ロットにも対応する。

「製造拠点が海外に移っても、それは量産の段階で、重要な試作品は国内で作るという企業が多い。弊社のプラスチック成形技術はそれに適しています」

ノウハウの情報漏洩を徹底的にガード

新しい製法確立に事業運営の軸足を置く同社は、製造技術に関しては徹底的な情報管理をしている。

きっかけは、取引先大手企業との秘密保持契約締結の増加や、同社ホームページが同業者により無断使用された体験からだ。

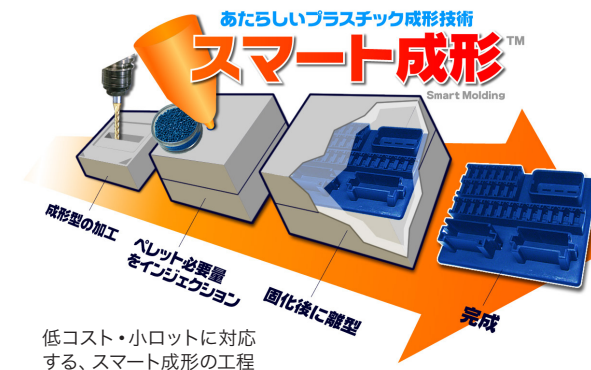
具体的には、情報管理規定を制作、秘密保持マニュアルに沿って秘密保持契約書を作成、全従業員に誓約書を提出してもらった。

秘密保持契約書の雛形は、東京都知的財産総合センターの支援を得て作成した。同センターから講師を派遣してもらい、秘密情報管理に関する研修講演を聞いたのち、全従業員から秘密保持誓約書を提出してもらう。内容は、業務にかかわる技術の持ち出し禁止・退社後も 2 年間は同業他社で就労しないなどのルールが定められている。

「誓約書といっても、特に法的拘束力があるわけではありません。しかし、うちのような中小企業で情報漏洩する者が出ると、それが会社の首を絞めることにつながる。社員に情報管理意識を高めてもらう一つの手段なのです」



スマート成形で作られた PC 樹脂の携帯電話試作品



低コスト・小ロットに対応する、スマート成形の工程

工場の入場者を指紋認証システムで確認

加えて工場は、指紋認証システムによって入場者を制限し、工場の電話番号は取引先にも伝えない。外部からの訪問者は携帯電話で連絡を取り、工場内に入れる仕組みだ。

さらに、社内の全室に監視カメラを設置、インターネット回線によりすべての部屋の様子が一度に見られるようになっていく。

「このカメラ映像は、夜中に私の自宅からも見ることができます。以前、会社が火事になったり泥棒に入られた経験を踏まえて、全社を一度に見渡せる仕組みを強化するために実施したものです。実際には、社員が私を探するなど、誰がどこにいるかを見つけるために使われているようですが（笑）」

パソコンからの情報漏洩にも配慮して、電子資料の保管場所の限定、アクセス制限、情報流入・流出のハード・ソフト面の管理などにも留意している。



光造形医療モデル。血管位置などの個人データを基に再現した頭蓋骨

さらに、「3D スリップキャスト®」、「ジャストインメイク®」など、製造技術名に®を加えているのも、盗用についての心理的抑止力になればという判断だ。

「われわれにとって秘密情報管理は、自分たちの生活を守ることと同じ。機械部品など海外での販売も広く展開していますが、対外的にも体制を整えていこうと考えています」

知的財産活用のポイント

秘密情報管理は徹底的に！

インターネットを通じて、企業情報や製造技術などが流出するリスク。それは、今日増大するばかりである。これらの情報を管理するとき難しいのは、“ほどほど”が通用しないことだろう。たった一人が洩らした情報が瞬時に世界中に伝わり、次々にリンクされる。秘密情報管理には、徹底的に考え抜かれた方法・システムの構築が必要になる。

「製造技術の秘密を漏らすことは、自分たちの首を絞めること、その認識を持つてほしい」

同社の木田代表は、危機感からいち早く、社内の情報管理体制を強化した。大手企業にとって当然のことでも、中小企業で徹底化している事業所はまだ少ない。しかし、会社の知的財産を守ることは、企業生命そのものを守ることなのだ。